

P・I・A シート

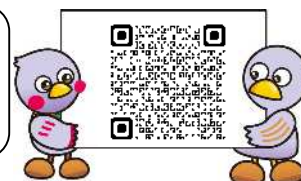
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
小学校 音楽 編 ① 概要

校種・学年	小学校・5学年	教科等	音楽
題材名	和音のひびきの移り変わりを感じ取ろう		
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と和音の響きなどの音楽の構造との関わり、音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて表現する技能や、呼びかけとこたえや変化など、これまで学んだ音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付ける。 〈知識及び技能〉 ・旋律、音の重なり、和音の響き、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて、また、音を音楽へと構成することを通してどのように全体のまとまりを意識した旋律をつくるかについて思いや意図をもつ。 〈思考力、判断力、表現力等〉 ・和音の響きやその移り変わりを感じ取りながら表現する学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、音楽づくりの学習活動に取り組み、和音の響きに親しむ。 〈学びに向かう力、人間性等〉 		
本時の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律、和音の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。【思考・判断・表現】（作品聴取、発言内容、学習支援ソフト（ロイロノート）への記述） ・和音の響きやその移り変わりを感じ取りながら表現する学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】（行動観察、学習支援ソフト（ロイロノート）への記述） 		

事例の概要(見どころ)

- ・和音の構成や移り変わりを視覚的に捉えて旋律をつくる場面や、和音の豊かな響きを感じ取る場面で、ICT端末を効果的に活用しています。
- ・児童一人一人の楽器演奏の技能にとらわれずに、全ての児童が思いや意図を生かしながら音楽づくりをするために、デジタルコンテンツや音楽創作アプリを活用しています。
- ・つくった作品を学習支援ソフト（ロイロノート）上で聴取できるようにして、曲名や作曲の意図とともにお互いの作品を聴き合う対話的な場面を設定することで、友達の様々な考えに触れながら、個の学びをより深めるようにしています。

発行：令和7年3月
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html>



P・I・A シート



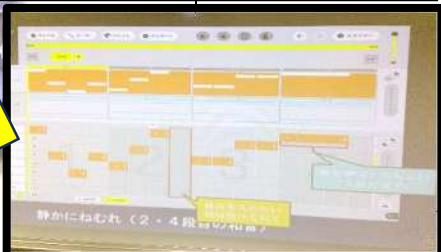
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
 小学校 音楽 編 ② 指導展開

- 目標 旋律、和音の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
 (思考力、判断力、表現力等)

和音の響きやその移り変わりをを感じ取りながら表現する学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、音楽づくりの学習活動に取り組む。
 (学ぶに向かう力、人間性等)

- 準備 ICT端末、大型モニタ、複数人で同時に聴くための装置 (イヤホン splitter)、学習支援ソフト (ロイロノート)、学習者デジタルコンテンツ 音楽創作アプリ (カトカトーン・バーチャルピアノ Musicca)

- 展 開 (5/7)

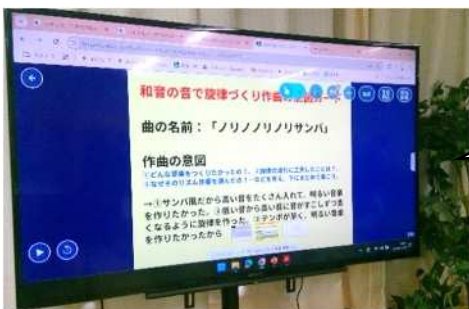
○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と【評価方法】
<p>・既習曲「大切なもの」を歌い、学習の雰囲気をつくる。</p> 	<p>○自然で無理の無い響く歌声になるように、適宜指導する。</p> <p>気持ちを一つにのびのびと歌う姿は、よりよい学級経営から創出されます。また、よりよい学級経営は、主体的・対話的で深い学びにもつながります。互いに認め合える学級の雰囲気が心をつなげた歌へとつながり、また、音楽科の授業の基盤ともなります。</p> 
<p>○和音のつながりやリズムの特徴を生かし、音や音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した旋律をつくるかについて、思いや意図をもつ。</p> <p>・本時のめあてをつかむ。</p>	<p>【授業改善の視点①】 音楽的な見方・考え方を働かせる仕掛け 深い学びの実現には音楽的な見方・考え方を働かせることが重要です。本事例のように、本時において、何を視点に音楽を捉えるのかを示すことで、児童は音や音楽を捉えることができ、音楽に対する感性を働かせることができるようになります。</p>
<p>和音のつながりやリズムの特徴を生かして 旋律づくりに挑戦しよう！！</p> <div data-bbox="124 1447 443 1626"> <p>今日の学習のめあて</p> <p>和音のつながりやリズムの特徴を生かして 旋律づくりに挑戦しよう！！</p> </div> <div data-bbox="448 1447 767 1626"> <p>今日の学びの進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分が見つかりたい音楽に合ったリズム伴奏を、4つの「リズム伴奏候補」の中から1つ選ぶ。 選んだリズム伴奏に合わせて旋律をつくる。 どんな音楽をつくりたかったか(作曲の意図)を考え、「曲名」を決める。 スクショと音源、作曲の履歴カードを提出する。 グループになり、一人一人が曲名と作曲の意図を話し、できた音楽を聴き合い、良さを伝え合う。 </div>	<p>←「めあて」や「学びの進め方」を示し、見通しをもたせる。</p>
<p>・各小節の和音の構成や音楽創作アプリ (カトカトーン) による旋律づくりの仕方について想起する。</p> <p>・前時につくった自分の作品を聴取し、和音から選んだ音や旋律の流れの作り方などについて確認する。</p>	<p>○前時に作成した音楽創作アプリ (カトカトーン) のファイルを開き、音を再生しながら確認するようにする。</p> <p>○音楽創作アプリ (カトカトーン) 上の階名に色 (ド…赤、レ…橙、ミ…黄、ファ…緑、ソ…深緑、ラ…紫、シ…ピンク) を付けて表示し、和音の構成音を視覚的に把握しやすいようにする。</p>
<p>和音の構成音が視覚的に把握しやすい。</p> 	<p>【授業改善の視点②】 ICTの効果的な活用 ICT端末や音楽創作アプリを駆使することにより、児童一人一人の楽器演奏の技能にとらわれずに、誰もが思いや意図を生かしながら音楽づくりをすることができます。また、つくった音楽を何度も聴きながら、試行錯誤することにより、より自分の思いや意図を表現することができます。</p>

- 4つのリズムの和音伴奏から、自分がイメージした曲想に合うものを選び、和音の構成音で旋律をつくる。
- 4つのリズム和音伴奏を全員で聴取し、旋律をつくってみたい伴奏を1つ選ぶ。



- 全体の音の動きに留意しながら和音の構成音を適宜配置し、旋律をつくる。
- つくった作品の音源と画面のスクリーンショットを出力し、学習支援ソフト（ロイロノート）に貼り付ける。
- 学習支援ソフト（ロイロノート）のカードにつくった旋律の題名と作曲の意図を記入し、音源とスクリーンショットを貼り付けたカードと共に提出する。

- 友達がつくった作品をグループごとに聴取し、よさや面白さについて話し合う。



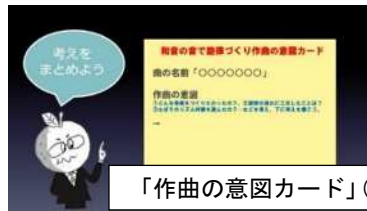
- 学習を振り返り、本時のまとめをする。

< 4つのリズム和音伴奏 >

- ① 行進曲風 ② サンバ風 ③ 茶色の小びん風 ④ クリスマス風

4つのリズム和音伴奏を聴いている様子です。これにより、児童が旋律づくりへのイメージをもつことができたり、イメージを広げたりすることへの支援につながります。

- 学習支援ソフト（Google Classroom）に4つのリズム伴奏のテンプレートへのリンクを提示し、ダウンロードしてファイルを開くようにする。
- 選ぶ音は1点ハから2点ハまでとすることを伝える。
- 使える音価は4分音符（1マス）、2分音符（2マス）までにするように伝える。
- 音を適宜再生し、自分の思いや意図にふさわしい旋律になっているかを確認しながら、音を選んでいくようにする。



「作曲の意図カード」(これをもとに意見交流)

☆思考・判断・表現①

旋律、和音の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。

【作品聴取、発言内容、学習支援ソフト（ロイロノート）への記述】

- 各々の作品を聴取する前に、作曲者が曲名や作曲の意図を全員に話すように伝える。
- 複数人で同時に聴くための装置（イヤホン・リッパ）を使いグループ全員が同時に曲を聴取しながら話し合いを進めるように伝える。

グループ内で、自分の作品を発表したり、互いにアドバイスし合ったりすることで、対話的な学びの実現につながります。「作曲の意図カード」があることにより、思いや意図を感じながら聴くことができ、より具体的な感想を交換することができます。

【授業改善の視点③】

対話的な学びの仕掛け

学習支援ソフト（ロイロノート）を用いて、完成した作品について「作曲の意図カード」に考えを入力し、可視化して共有することによって、他者の考えから自分の考えをより深め、広げられるように工夫しています。

このあと、個に戻すことで、もう一度自分の作品を振り返ったり、より試行錯誤したりするなど、対話的な学びでの成果を還元し、深い学びへつなげることができます。

最後に、完成した作品と「作曲の意図カード」を発表し、全員で共有をしました。全体で発表を聴くことで、自分とは違う様々な思いや意図があることに気付くとともに、いろいろな旋律があることを知ることができるなど、これからの学びに生きていきます。

☆主体的に学習に取り組む態度①

和音の響きやその移り変わりを感じ取りながら表現する学習に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

【行動観察、学習支援ソフト（ロイロノート）への記述】